

少女まんが館蔵書の整理・メタデータ化プロジェクト

有限会社さるすべり

●概要／課題

少女まんが館は「少女まんが世界」の永久保存を目指し、有志 15 名によって 1997 年に創設された少女マンガ専門の私設図書館である。開架式のため、手軽に見て触ることができ、創設から数年は友人とその友人ぐらいまでの限定型公開だったが、2002 年から週一回の一般公開を始めた。

収蔵品は少女マンガファンなどからの寄贈により、明治時代から主に 2000 年までに発行された少女雑誌や少女マンガ雑誌とそのふろく、コミックスや単行本、イラスト集、貸本、関連書籍やグッズ類、直筆サイン本、原画など多岐にわたり、1970～80 年代少女マンガ雑誌の一部作品の切り抜きファイルなども、多数寄贈されている。

2012 年あたりから収蔵能力を超えたため、重複分や 2001 年以降に発行された雑誌やコミックス・単行本を米沢嘉博記念図書館や少女まんが館 TAKI1735（三重県多気郡多気町、2015 年開館）などへ寄贈（段ボール箱約 400 個）してきたが、それでも、次々と届く寄贈書類は本棚 100 本、本館面積 24 坪の収容力の限界に達し、未整理のものが段ボール箱 300 個、プラケース 90 個ほどになった。

また、近年、未整理の中に他の関連施設にない唯一の存在が明らかになり（萩尾望都デビュー作品掲載の雑誌『なかよし増刊』、明治時代の少女雑誌など）、蔵書（収蔵品）の抜本的整理とメタデータ化の必要を痛感した。

本事業は、個人レベルで運営してきた少女まんが館をより利用しやすくし、蔵書をメタデータ化するためのもので、本館の蔵書を整理しつつ、重複分などの検分と総量（総冊数）調査、一部蔵書のメタデータ化を実施した。

収蔵能力を超えたため、解決策として熱海分室を新たに設置、重複分は熱海分室へ移動させる予定である。

●体制

アドバイザー：池川佳宏（熊本大学）

進行管理：中野純、大井夏代（有限会社さるすべり）

蔵書整理・データ入力：上記 2 名に加えてアルバイト 3 名

データベース構築：田中二郎（ねりまど〜るザインターネット）

●手法

1 段ボール箱すべてを開けて、中を検分。雑誌／コミックス・単行本／その他（イラスト

集、エッセイ集、詩集など) / 関連書籍 (研究本、公式ファンブックなど) / 貸本 / 少女雑誌 / ふろく小冊子 / 同人誌 / ふろく類・グッズ類に大まかに分けた。

2 昭和時代 (~1989年1月7日) までに発行されたものは、基本的に2冊保存。2冊目は熱海分室へ送るために木箱・段ボール箱に収納 (135個)。

3 昭和時代発行までのものの3冊目以降は、少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納。

4 平成時代 (1989年1月8日~2000年12月31日) は1冊保存。2冊目以降は少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納。2001年以降発行のものも、少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納。

5 本館本棚すべてに名前をつけ (いろはにほへと~)、開架書架の総冊数をカウント。

6 段ボール箱、プラスチックケース、引き出し、戸棚などにナンバリングしてシールを貼り内容をメモ書き、冊数をカウント。本館、蔵書整理小屋 (茶室)、臨時蔵書整理小屋 (オヒルネ小屋) など、2024年1月現在、少女まんが館内にあるふろく類やポスター、グッズ類なども検分。

* 広いスペースがないため、天気の良い日に、庭にシートを敷いて、蔵書整理をするのが常だった。段ボール箱を運び出したり戻したりの、体力仕事となった。

7 メディア芸術データベース (以下、MADB) のデータを基にした雑誌リストに、本館本棚や整理済み段ボール箱の雑誌 2,000冊あまりを、二人ひと組でデータ入力。ひとりが雑誌本体の記載を読み上げ、一人がパソコン入力。

●成果

・これまで推定で蔵書 6万冊超と公表してきたが、総冊数は 40,433冊であることが判明 (未着手分のふろく、グッズ、原画などを含めると、収蔵点数は約6万点に近づくと思われる)。

(総冊数内訳)

雑誌 13,592冊

コミックス・単行本 23,448冊

その他 466冊

関連書籍 698冊

貸本 660冊

少女雑誌 1,052冊

ふろく冊子 360冊

同人誌 157冊

(収蔵品 / 未カウント)

ふろく類・グッズ類 段ボール箱、プラケースなど 34個

雑誌一部切り抜きファイルなど 段ボール箱、プラケースなど 6個

・MADB のデータを基に蔵書リストを作成。2,400 冊の蔵書検索が可能になった（週刊セブンティーン／増刊セブンティーン／週刊マーガレット／増刊マーガレット／なかよし増刊／少女界など）。

●公開方法

- ・少女まんが館蔵書検索 <https://www.nerimadors.or.jp/~jomakan/data/>
（令和 6 年 3 月 18 日より公開）
- ・例年通り、4～10 月までの毎土曜日午後、一般公開

●残された課題

未着手分として、ふろく類が入った箱など 34 個、雑誌の一部作品切り抜き 6 箱が残った。また、大半の蔵書のメタデータ化も未着手で重複分の検分も道半ばのため、ふろく類の点数調査とリスト化、本館蔵書をより見やすくわかりやすく並べることも、今後の課題である。

●文化的・社会的・経済的な意義

- ・少女マンガファンはもちろん、女性問題やジェンダー研究者にとっても、貴重な一次資料を手軽に検索、閲覧できる場に近づいた。
- ・日本のオリジナル文化といわれる「少女マンガ」の文化的資産を肉付けできた。
- ・日本全国、海外からも老若男女が来館しやすくなり、タクシー利用、周辺地域の飲食店や観光施設への経済的波及がより大きく見込まれる。